

時代の潮流の変化と北海道開発の意義

「北海道総合開発計画」は、北海道における資源の総合的な開発を目的とする。一方、「国土形成計画」は、「開発」基調の量的拡大から成熟型の計画へと国土計画の目的の転換がなされ、国土の利用、整備及び保全を推進するための総合的な計画とされる。

北海道においても、社会資本ストックの維持・管理ニーズが高まるなど経済社会の成熟化が進みつつあるが、良好な自然環境や広大な国土空間、フロンティアとしての開放的な風土など、他の地域にはない優れた資源と特性を有しており、これらの資源と特性に価値を見出し、我が国の発展のために活用することが求められている。

基本政策部会においては、「開発」について、「世界的にみて持続可能な開発が重要」「開発は、単なる成長ではなく、成長をコントロールするという意味に変わってきた」「開発は、色々な力の集合により自ら発展していくという意味」「資本ストックとしてのインフラの有効活用は重要」など、開発の意義について指摘されている。

もとより資本ストックの有効活用は今後益々重要性を増すものと考えられ、「開発」は既存ストックの維持、改善、利用を含む地域の持続可能な自律的進化・発展を促す概念と考えられるのではないか。

これらを踏まえると、北海道開発の意義は、北海道の優れた資源・特質を活かしながら地域の開発を進めることにより、民の活力・地域の競争力の醸成、経済と環境が両立する持続可能な安全・安心な社会の形成など、グローバル化、人口減少下の我が国が21世紀に直面する基本的課題の解決に先駆的な役割を果たすこと、と位置づけることができるのではないか。

以上の基本認識の下、時代の新たな潮流の中で、北海道開発において重要性が高まっている視点及び国の責務についての問題意識を整理すると以下のとおり。

(人口減少・高齢化)

人口問題は国土政策・国土管理の基本にあり、地域のあり方、住民

・企業の活動のあり方に大きな影響と変化をもたらす。

北海道における急速な人口減少・高齢化により、集落の維持が困難となるような過疎地域が拡大しつつある。他方、こうした地域は農業生産、自然環境等、我が国にとって極めて重要な役割と価値を有している。

北海道が安全で良質な食や良好な自然環境を国民に提供していくことが求められる中、こうした地域の価値の保持及び過疎地域と都市との連携・共生をどのように図っていくべきか。

（自然環境、エネルギー）

限られた地域資源と環境容量の中で良質で豊かな自然環境の保持が世界的な課題であり、持続可能な経済社会の大前提となっている。

化石燃料の依存度の高い北海道が、その豊かな資源を活かし、国家的課題であるエネルギー、自然環境の保全について、先導的な役割を果たしていくことが求められている。

環境負荷の少ないエネルギー源開発、環境と共生する経済活動・生活（循環型経済社会）、自然環境を活かした社会インフラ整備等についてどのような取組みを進めていくことが重要か。

（グローバル化への対応）

グローバル化が進展し、世界の人、財、資本、技術、情報を活用、誘引できなければ、国・地域は活力を失う。特に、急成長するアジアの市場にコミットし、競争力を持てるかどうか、地域が持続的に成長するための必須の要素となっている。

北海道がその地理的特性と固有の資源、社会インフラ等を最大限に活用して「アジアの宝」として輝き、地域が主体的に世界に情報発信し、市場を取り込んでいくことは、我が国に多様性のある経済構造をもたらす。

具体的には、農水産物の国際競争力の強化と輸出拡大、観光等交流人口の増加、対内直接投資の増加、国際的物流システムの整備、また知的交流拠点としての役割等が考えられるが、アジアの成長のダイナミズムを地域の発展にどのように結びつけていくべきか。

（自立的安定経済への移行）

人口減少が進む中で、人間力を高め、生産性向上、高付加価値化を図ることが求められている。また、地方の時代においては、それぞれの地域の多様な個性ある自立なくして国の発展はありえない。こうした中、人口や財政等の成長制約下では、戦略的な発想とビジョンが重

要となっている。

北海道がその優位性またグローバル化を活かし、付加価値の高い産業として、また、それを育成する方策として何に焦点を当てていくべきか。また、民主導の自立的発展を支える上で、人材育成、金融、社会資本等インフラ面において、国はどのような役割を果たしていくべきか。

（安全・安心な国土）

国民の安全・安心の確保は国の責務である。特に水害等災害に対して国民の生命や財産を守ることが国の基本的責務であることは世界の共通認識となっている。

北海道は、ロシア極東地域に接し、積雪寒冷で災害が多発する地域であり、地域住民の生活、生産活動の基盤の安定・安全・安心を確保することが何よりも重要である。

こうした北海道において、災害に強い国土、都市と農山漁村間の人口の疎密が拡大しつつある中、暮らし易いコミュニティを築く上で、どのような国土管理が求められているのか。

（多様性を有する道内の各圏域）

我が国の国土の22%の面積を有する北海道は、自然条件や社会条件が異なり個性的な資源・特性を有する、多様性のある地域から形成されている。第6期計画では、こうした多様性を6つの圏域として捉えている。

グローバル化、人口減少・少子高齢化の進展など新たな時代の潮流の変化の中、自然や環境の保全、安全で安心な食料の供給などその資源・特性に応じて地域の果たす機能に着目して圏域を検討し、そこから我が国に貢献する北海道の多様な姿を明らかにしていくことも重要ではないか。

具体的には、原生的な自然が豊富ではあるが集落の維持が困難な圏域、農・水産業を中心に付加価値の高い生産活動が行われつつ人口減少・少子高齢化が進む圏域、一定の人口や産業の集積が確保されうる都市圏域などについて、その将来の姿をどう描くのか。